

日 時 令和 2 年 2 月 1 1 日 (火)

場 所 新大阪丸ビル別館

大阪府大阪市東淀川区東中島 1 - 1 8 - 2 2

午前の部 地方議員のための RESAS 活用 基礎編  
1 0 時 0 0 分 ~ 1 2 時 3 0 分

午後の部 地方議員のための RESAS 活用 応用編  
2 時 0 0 分 ~ 4 時 3 0 分

## 1、研修の目的

地域経済分析システム (RESAS : リーサス) は、地方創生の様々な取り組みを情報面から支援している。よって地方自治体や、地域の活性化のために広く利用できるシステムの活用方法について学ぶ。

## 2、研修の内容

午前の部は、地域経済分析システム (RESAS : リーサス) の基礎編を学んだ。内容は RESAS に地域のどんな情報データが蓄積をされているのか、状況の把握ができると共に数値的根拠から課題の明確化に繋がり、政策提案に結びつけられるものであると説明を受けた。

基礎編は、①人口マップ ②地方財政マップ ③雇用・医療福祉マップに分けて進められた。

①人口マップについて、人口の推移、人口ピラミッド、人口増減や合計特殊出生率や転入転出状況、進学者の流出入状況も客観的に見られ、人口減少対策の施策などにもつながるものであった。

②地方財政マップについては、本市の財政力指数、経常収支比率、実質公債費比率の推移や、自治体の一人当たりの地方税額も見ることができ、類似団体や近隣地町との比較も容易にできるものであった。

③雇用・医療福祉マップについては、京都府としてのデータでしか見ることが出来なかった。しかし、府の有効求人数や職業ミスマッチの状況も見ることができた。



午後の部は、応用編として、更なる RESAS 活用方法について学んだ。

- ①地域経済循環マップ ②産業構造マップ ③企業活動マップ ④観光マップ  
⑤まちづくりマップに分けて進められた。

最後は地方議員としての分析の視点と、RESAS 活用事例と議員の役割について学んだ。

①地域経済循環マップについて、このマップは地域の産業構造が分類されている。地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出され、再び地域企業に還流する。

しかし、この過程で地域外にお金が出た場合、地域経済が縮小する可能性がある事から、この地域経済の循環を把握することで、どこに課題があるかを分析できる。

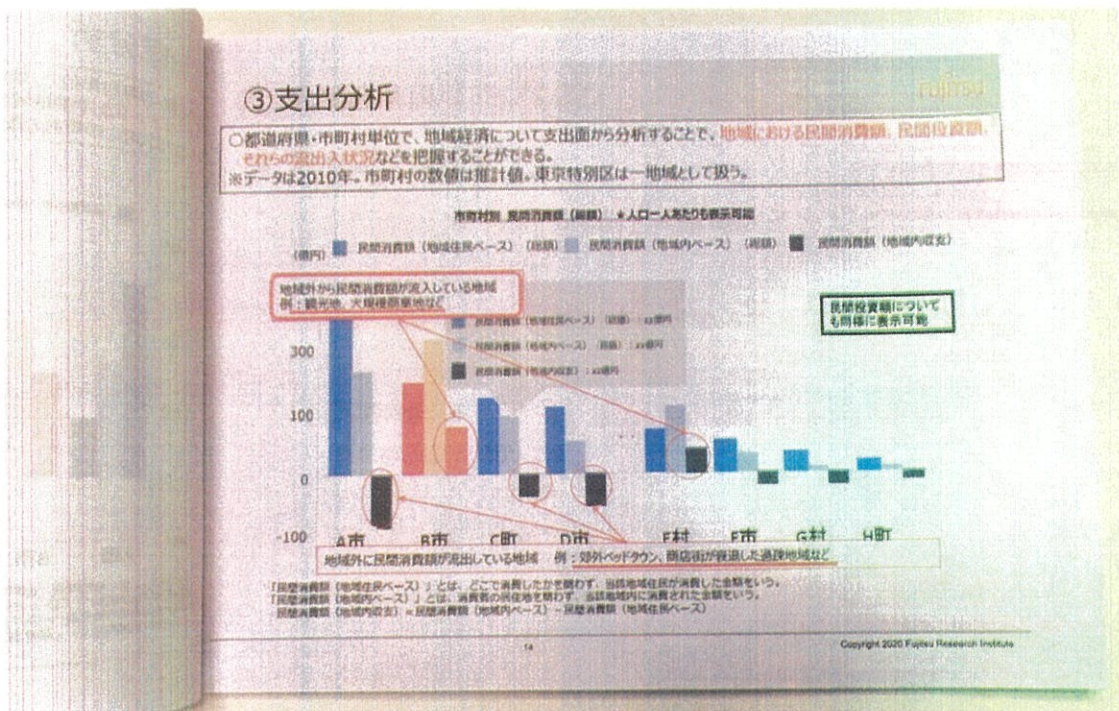
よって、地産地消で力を入れるのか、観光で力を入れるか、このマップの活用が効果的である。

- ②産業構造マップについては、製造業から小売り関係企業や農林水産業までの構造や分析、比較まで集計され統計も見ることが出来る。

- ③企業活動マップについては、企業情報として黒字赤字企業比率、中小・小規模企業財務比較が集計されている。また、海外取引での企業進出動向や輸出入取引も見る事が出来る。
- ④観光マップについては、国内の旅行者と外国人旅行者と分類されており、目的地分析や宿泊施設の稼働率も見る事が出来る。検索された目的地別でも表示され、旅行者がどこで滞在して何を求めているかが把握できるため、観光の施策としても重要な活用データである。
- ⑤まちづくりマップについては、滞在人口率、通勤通学人口、施設周辺人口は、人が多く集積している所に公共施設があるのか、公共サービスが行き届いているかを地図上で把握できる。不動産取引の推移も近隣市町との比較で見ることが出来る。

最後に、地方議員として RESAS 活用の分析と視点については、地域が持続可能であるかどうか。主には人口構造や推移、自然・社会増減などから考えて行くべきという視点であった。

その次に自治体の経営状況を見ながら、どんなビジョンで行政が進もうとしているのか、地域の課題は多く山積している中で、課題解決にすべきことに地域経済分析システム (RESAS: リーサス) を用いることが重要であるという研修内容であった。



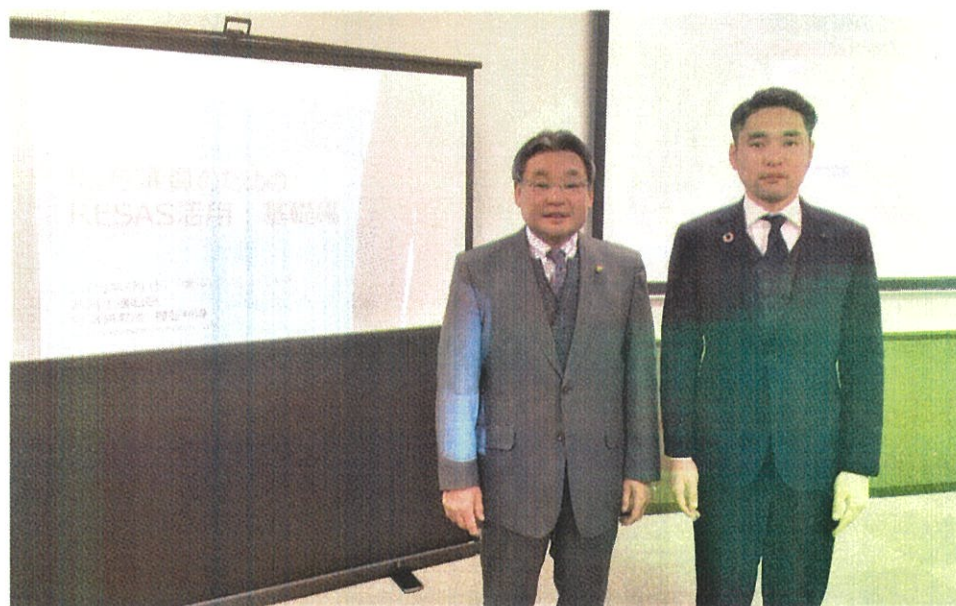
### 3、所 見

平成27年から国は、地域経済分析システム（RESAS：リーサス）の提供を開始した。これまで国が各地域の情報データを集積していたが、地方創生の観点から地方創生の実現に向け、まち・ひと・しごと創生本部が設けているシステムを都道府県・市区町村などの地方自治体が客観的なデータに基づく形で地域の現状や課題を把握でき、そのデータを政策などに活用出来ることを意図している。実際に、中・高校生や大学、企業が参加している「地方創生・政策アイデアコンテスト」を行っており、各世代で地域課題を分析し、政策立案を行っている。

この RESAS は人口マップ、地域経済循環マップ、産業構造マップ、企業活動マップ、観光マップ、まちづくりマップ、雇用・医療福祉マップ、地方行政マップがあり、誰もが簡単に情報を収集しやすく活用できるところがメリットであると考えられる。

例えば、RESAS で本市のまちづくりマップ構造のFrom-to 分析で調べると、2019年4月は滞在人口3万8千人、地域外人口は2千人で、内訳では兵庫県が約800人、大阪府は約500人が市内に滞在していることが分かる。

また、市内の観光マップの構造から調べると、国内の目的地分析では、夏季・冬季共に丹後王国にアクセスが集中し、夏季であると海岸線の拠点の検索が多く、冬季には旅館のアクセスが多い。また、近隣市町村も見ると観光客の動向もデータから見て取れる。産業構造マップ構造の市内全産業の労働生産性（企業単位）は、府内17位、全国では1,193位であった。この算出根拠は付加価値額と従業員数で算出している。



このように、誰でも簡単に調べることができ、客観的にデータの見える化を図ることで、行政間の広域な連携や民間企業の新たな事業拡大につながる一助であると考えられる。特に行政や地方議員においては、地域の課題や特性について RESAS を用いることで効果的・効率的にまちづくりの政策立案に寄与するものとする。

これからの10年、20年後の先を見通して、現状把握と将来の見通しを考えるに当たり、この RESAS を活用して今できる手立てや対策を考えていく必要がある。

しかし、この RESAS は構造的に最新データもあれば5年前のデータのものもある。そしてすべてが市町村単位で表示されないものもある。また、ビッグデータであり通信速度が遅かったりスムーズに見れたりもする懸念を感じるが、これまでには無い分析システムであるため、今後は活用しない手はないと考える。

個人的には、RESAS は難易度が高いというイメージであったが、今回の研修を通じてやはり「習うよりは慣れろ」で自分から積極的に RESAS を活用し、地域の特性を活かした持続可能なまちづくりに寄与していくものとする。